

News Release

2020年1月23日

NITE（ナイト）

独立行政法人製品評価技術基盤機構

北海道支所

急増！非純正リチウムイオンバッテリーの事故 ～実態を知り、事故を防ぎましょう～

1. 事故の発生状況

北海道において、非純正バッテリーが関係する製品の事故はありませんが、2014年度から2019年度の6年間にNITE（ナイト）に通知された製品事故情報^{*1}のうち、リチウムイオンバッテリーを搭載した製品の事故は、北海道で合計40件^{*2}ありました。そのうち27件が火災事故です。

(1) 年度別事故発生件数

年度別事故発生件数を表1に示します。

表1 年度別事故発生件数（2014～2019年度）

発生年度	合計
2014年度	6
2015年度	2
2016年度	5
2017年度	6
2018年度	16
2019年度	5
合 計	40

(2) 被害状況別事故発生件数

被害状況別事故発生件数を表2に示します。

表2 被害状況別事故発生件数（2014～2019年度）^{*3}

被害状況		合計
人的被害	死亡	0
	重傷	0
	軽傷	3
物的被害	拡大被害	27
	製品破損	9
被害なし		1
合 計		40

- (※1) 消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故に加え、事故情報収集制度により収集された非重大製品事故やヒヤリハット情報（被害なし）を含める。また、2019年度の件数は、2019年12月31日までに通知があった件数。
- (※2) 重複、対象外情報を除いた事故発生件数。
- (※3) 人的被害と物的被害が同時に発生している場合は、人的被害の最も重篤な分類でカウントし、物的被害には重複カウントしない。製品本体のみの被害（製品破損）に留まらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすことを「拡大被害」としている。

2. 主な事故事例

(1) モバイルバッテリー

○2014年6月（北海道、年齢不明・女性、使用期間約4か月、拡大被害）

事故内容：充電中のモバイルバッテリーから火が出て、周辺を焼損した。

事故原因：内臓バッテリー（リチウムイオン）に不具合品が混入したため、充電中に内部短絡が生じ、異常発熱して焼損したものと推定される。

(2) ノートパソコン

○2018年1月（北海道、60歳代・男性、使用期間不明、拡大被害）

事故内容：ノートパソコン及び周辺を焼損する火災が発生した。

事故原因：ノートパソコンのバッテリーパックに使われているリチウムイオン電池セルの製造時の不具合により、導電性異物がセル内に混入し、充放電を繰り返すうちに、内部短絡して異常発熱し焼損したものと推定される。

3. リチウムイオンバッテリーの事故を防ぐためのポイント

- ①入手する際はPSEマークの表示があるか確認し、販売元が確かな製品を購入する。
- ②落とす等、衝撃を与えないよう丁寧に扱う。
- ③充電中に以前よりも熱くなる等の異常がみられた場合は、使用を中止する。
- ④リコール対象製品でないことを確認する。

4. 事故の実験映像について

事故の実験映像及び写真をご希望の場合は、下記の間い合わせ先までご連絡ください。

なお、映像をご使用の際、クレジットは「製品評価技術基盤機構+NITEのロゴ」としてください。

(本件に関する問い合わせ先)

〒060-0808 北海道札幌市北区北八条西2丁目

札幌第1合同庁舎 4階

独立行政法人製品評価技術基盤機構 北海道支所

担当者：大井、鈴木、下川

電話：011-709-2324